



おばあちゃんのかけもどし(かんげん・もどし)

①むかし、むかし、パン作り名人のおばあちゃんがありました。おばあちゃんには、ふたりのこどもがいました。あには赤さんで、おとうとは青さんという名前でした。赤さんは3人家族、青さんは7人家族でした。おばあちゃんちの近くに赤さん、遠くに青さんがすんでいました。

②ある日おばあちゃんは、メロンパンを185こつくりました。赤さん3人と青さん7人に同じかずずつメロンパンをあげるとでんわしました。

③すぐ赤さんがやってきました。おばあちゃんは185こを3人に分けるため÷算をつかってかんがえました。1÷3(わけられない)そこで18÷3ならどうかと考えました。18÷3=6 赤さんに6こずつわたしました。(30人に6こ) のこりは、5こになりました。

④青さん7人が今おばあちゃんちにやってきました。メロンパンが5個しか残っていないのにびっくり、ひとりにつき1こもらえませぬ。青さんがおばあちゃんにいました。「赤さんにいくつわたしたの?」「ひとり6こずつだよ。」「おおくわたしすぎだよ。」青さんはいいました。

⑤おばあちゃんは、しばらく考えました。「あー。いいことをおもいついた。」「赤さんから1こずつかえてもらおう。」「3人だから3こかえてくるね(30こ)」「赤さんは、ひとり5こになるね。」「かえてもらった3(30)とのこっている5こで35こ。35÷7=5 やった赤さん3人も5こ青さん7人も5こずつ。」

⑥「みんなおなじかずになった」「よかった」めでたし めだたし。

(メロンパンの数) $185 \div 37 = 5$

